

平成25年度
事業報告書

済生会基本原則

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立され、平成 23 年 5 月、創立 100 周年を迎えた。

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

平成 25 年度 静岡県済生会経営方針

済生会の理念と役割の実践

創立 100 周年を迎えた社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、広く外部、社会にむけて済生会の理念・役割・進むべき方向を知ってもらうために、第四次基本問題委員会報告書として一済生会の次の 100 年に向けて一 の発表を受け、5 年間の中期事業計画を作成した。厳しい経済状況、サービス事業体系と報酬体系が様々変化する経営環境の下、中期事業計画の初年度にあたる平成 25 年度、静岡県済生会職員は、今後の事業の指針とし、将来に向けて積極的に取り組んでいく必要がある。

1. 済生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神を具現化した無料低額診療事業は、済生会活動の原点である。この事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療福祉サービスの積極的な推進を図る。この事業を幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドが確立する。

2. わが国最大の医療・福祉団体としての活動

- ・生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。
- ・急性期から在宅まで切れ目のない医療・福祉サービスを提供するためには、あらゆる種類の医療・福祉サービスが密接に連携する必要があり、この面でも先導的な役割を果たしていく。

3. 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

4. 良質な人材の確保、「済生会人」としての育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

5. 地域社会のニーズに応えられるようその実現に努める。

6. ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全に一層努める。

目 次

	頁
○ 平成 25 年度事業報告	
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	8
3 静岡済生会総合病院	10
4 静岡医療福祉センター児童部	15
5 静岡医療福祉センター成人部	18
6 静岡医療福祉センターライトホーム	20
7 静岡市発達障害者支援センター	22
8 伊豆医療福祉センター	24
9 静岡県川奈臨海学園	28
10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家	30
11 小 鹿 苑	32
12 小鹿なでしこ苑	36
13 静岡市桜の園	39
14 静岡市心身障害者ケアセンター	44
15 ワーク春日	48
16 静岡済生会看護専門学校	50
17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	52

以 上

1 静岡県済生会支部事務局（共通事業）

基本理念

生活困窮者を**済**う

医療で地域の**生**を守る

医療と福祉、**会**を挙げて切れ目のないサービスを提供する

平成 25 年度目標と結果

平成 25 年度は、平成 26 年度からの新体制に向けて、規程・規則の制定及び一部改正、役員人事等、組織作りの年となった。また、第二次生活困窮者総合支援事業（なでしこプラン）の初年度にあたり、各事業の積極的な推進とその進捗状況の確認を図ることを目標とし、病院、各施設とともに推進、展開した。

刑務所、更生保護施設を利用、また、本支部施設においては、施設行事開催に併せて、述べ 1,409 名（ホームレス 15 名、DV 被害者 1 名、高齢者及び障害者 897 名、刑余者 59 名、外国人 54 名、母子児童 123 名、その他 260 名）に対して、健康診断、健康・医療相談、等行った。

（※詳細は、5 ページから 7 ページに記載）

（1）支部事務局運営事業

社会福祉法人^{恩賜財団}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 理事会、評議員会の開催

・理事会

	開催日	場 所
第 1 回	平成 25 年 4 月 30 日	静岡済生会総合病院
第 2 回	平成 25 年 4 月 30 日	静岡済生会総合病院
第 3 回	平成 25 年 9 月 3 日	静岡済生会総合病院
第 4 回	平成 25 年 12 月 19 日	静岡済生会総合病院
第 5 回	平成 26 年 1 月 30 日	静岡済生会総合病院
第 6 回	平成 26 年 3 月 25 日	静岡済生会総合病院

・評議員会

	開催日	場所
第1回	平成 25 年 4 月 30 日	静岡済生会総合病院
第2回	平成 25 年 9 月 3 日	静岡済生会総合病院
第3回	平成 25 年 12 月 19 日	静岡済生会総合病院
第4回	平成 26 年 1 月 30 日	静岡済生会総合病院
第5回	平成 26 年 3 月 25 日	静岡済生会総合病院

・役員及び評議員への報告会

開催日	場所	内容
平成 25 年 11 月 15 日	静岡済生会総合病院	静岡医療福祉センター児童部職員による不祥事

イ 諸会議の開催

会議名称	回
・支部事務局会議	22
・支部執行会議	1
・職員共済制度委員会	2

ウ 済生会本部等との連絡調整

会議名称	回
・支部業務担当理事会議（本部）	2
・第 70 回全国済生会常勤常務（業務担当）理事協議会（大阪）	1

エ 医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会議名称	回
・介護保険施設連絡会	8

オ 第三者委員会の運営に係る業務

	開催日	場所
第1回	平成 25 年 7 月 25 日	静岡医療福祉センター
第2回	平成 25 年 12 月 20 日	伊豆医療福祉センター

カ 職員研修事業の実施

	開催日	内容
第1回	平成25年4月1日	・新入オリエンテーション 法人概要と規程・規則の説明 新規採用職員100名出席
第2回	平成25年11月19日	・労務研修 「有期労働契約をめぐる問題点と留意点」 ・人権研修 「深刻化するハラスメント問題から組織と職員を守る方法」 施設長及び総務担当者27名出席

キ その他、法人の管理運営に係る業務

・会計事務所等による会計監査及び監事監査・全施設

	開催日	対象
監査法人及び会計事務所による会計監査	平成25年4月22日、23日 平成25年4月23日	静岡済生会総合病院 福祉施設等
監事監査	平成25年4月25日	全施設

- ・行政機関（静岡県、静岡市）による指導監査への立会い
- ・静岡県社会福祉協議会による第三者評価（受審施設・静岡県川奈臨海学園）への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業（なでしこプラン）を病院、各施設とともに推進、展開した。※各施設別詳細については、別紙参照

また、就職相談会、介護フェア等においても無料低額診療事業等のパンフレット配布やDVD上映等を行い、啓蒙活動を実施した。

今年度より実施の中期事業計画について、取りまとめ、本部への報告を行った。

(3) 支部社会福祉事業

病院南側駐車場（静岡県より無償貸与）の収益金を財源として、静岡県済生会の総合病院・社会福祉施設利用者の福祉の向上を図るための社会福祉事業を行った。

事業実施にあたっては、「社会福祉事業実施要綱」に基づいて、総合病院及び社会福祉施設において計画した事業のうち、特に利用者に対して利便性の向上が図れる等、社会福祉事業として貢献度が大きい事業を選択して単年度予算の範囲内で実施した。

対象施設	事業内容	金額（円）
静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」等 5施設	組立式プール設置事業等 8事業	3,425,730円

(4) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の上をを図るため実施した事業の実績は、次のとおりであった。

事業名	平成 25 年度		平成 24 年度	
	人数 (名)	決算額 (円)	人数 (名)	決算額 (円)
退職共済事業給付金	56	178, 140, 010	57	203, 595, 940
医療共済給付金	5, 225	31, 826, 953	5, 085	32, 145, 186
職員共済制度資金貸付事業	2	444, 236	2	848, 863

(5) 施設整備支援事業

ア 伊豆医療福祉センター施設整備支援

施設（病室・多目的室等）や設備（医療機器等）の狭隘、老朽化の問題を解消すべく、平成 24 年 11 月工事着工、平成 25 年 11 月 30 日竣工、12 月 17 日完成式典を迎えた。

イ 静岡済生会総合病院施設整備支援

共同利用型院内保育所新築工事及び新南館 B 棟増築工事への支援を行った。

平成25年度なでしこプラン事業報告(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

支部分	静岡県済生会	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数 (合計)	15	1	897	59	54	123	260	1,409

施設名	静岡医療福祉センター児童部
-----	---------------

事業名	障害児療育講座(健康医療相談)	内容	健康・医療相談 ()								
概要	施設利用者・家族を対象に無料の相談会を療育セミナー開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計	
		対象者延数						98		98	
実施延日数	6	従事者延数	26	支出総額(円)	支出なし	(内訳)	支出なし				
特記事項	連携している 団体・機関名										
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

施設名	静岡県川奈臨海学園
-----	-----------

事業名	りんかい保育室の緊急受け入れ事業	内容	その他 (その他)							
概要	伊東市の委託によるの病児・病後保育事業「りんかい保育室」事業において、緊急を要するケース(虐待など)を事業外で受け入れていく	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)					
特記事項	連携している 団体・機関名	伊東市役所								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)	体制は整えたが、対象者は0件だった。								

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑、小鹿なでしこ苑、静岡済生会総合病院、支部
-----	-----------------------------------

事業名	啓蒙・周知活動	内容	その他 (広報)							
概要	施設利用者・家族を対象になでしこプランなどの済生会の活動について講演会を施設行事開催時に行う。施設利用者だけでなく地域住民へも幅広く参加を募る	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							159	159
実施延日数	3	従事者延数	33	支出総額(円)	(内訳) 支出なし					
特記事項	連携している 団体・機関名	全国膠原病友の会静岡県支部、静岡県難病団体連絡協議会、静岡市介護支援専門員協会								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

施設名	静岡市桜の園、静岡済生会総合病院
-----	------------------

事業名	虐待障害者への緊急受け入れ事業	内容	その他 (その他)							
概要	家族等による障害者への虐待の緊急保護において、緊急を要するケースを静岡済生会総合病院と連携し受け入れていく	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			12					12
実施延日数	12	従事者延数	36	支出総額(円)	(内訳) 支出なし					
特記事項	連携している団体・機関名	静岡市役所 (障害福祉課)								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

施設名	静岡済生会総合病院
-----	-----------

事業名	「外国人のための無料健康相談と検診会」支援事業	内容	健康診断 ()							
概要	市医師会、実行委員会、医療福祉関係団体等と連携し、「外国人のための無料健康相談と検診会」に看護師やMSW等を派遣。血液検査などを無料にして、生活困窮外国人を対象に健康相談および検診を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数					54			54
実施延日数	1	従事者延数	19	支出総額(円)	364560 (内訳) 検診料					
特記事項	連携している団体・機関名	外国人のための無料健康相談会と検診会実行委員会、静岡市静岡医師会等								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

事業名	ホームレス等受診者に対する日用品、交通費等の支給事業	内容	その他 (その他)							
概要	緊急入院したホームレス、DV被害者等の受診者を対象に日用品の支給を行う。また、軽症の場合等には、病院から目的地までの交通費の支給も行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数	15							15
実施延日数	15	従事者延数	15	支出総額(円)	140000 (内訳)					
特記事項	連携している団体・機関名	静岡市 (各区役所、福祉事務所)								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

事業名	ハローワーク健康診断・相談事業	内容	健康・医療相談 ()							
概要	静岡労働局、ハローワーク等と連携し、ハローワークや施設内等にて、求職者を対象に健康相談やカウンセリングを行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)	(内訳)					
特記事項	連携している団体・機関名									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)	今年度はハローワークからの依頼がなかったため、対象者なし								

事業名	保護観察所等刑余者健診・相談事業		内容	健康診断 ()						
概要	保護観察所、刑務所、更生保護施設、地域生活定着支援センターと連携し、刑務所・更生保護施設又は院内にて、刑余者等を対象に健康相談及び健康診断を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数				59				59
実施延日数	4	従事者延数	18	支出総額(円)	244771		(内訳) 検診料等			
特記事項	連携している 団体・機関名	静岡保護観察所、静岡刑務所、静岡県地域定着生活支援センター、更生保護施設勸善会、少年の家								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

事業名	児童・母子福祉施設等健診・相談事業		内容	健康・医療相談 ()						
概要	児童・母子福祉施設、静岡県子ども家庭相談支援センター等と連携し、児童・母子福祉施設又は院内にて、児童・母子福祉施設の入所者を対象に健康相談及び健康診断を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			1			2		3
実施延日数	1	従事者延数	2	支出総額(円)	26953		(内訳) 検診料			
特記事項	連携している 団体・機関名	静岡県女性相談センター (静岡県子ども家庭相談支援センター)								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

事業名	社会福祉施設等健康診断支援事業		内容	健康診断 ()						
概要	社会福祉施設 (養護老人ホーム、軽費老人ホーム、身体障害者各施設等) と連携し、当該施設又は院内にて、当該施設の利用者を対象に健康診断にかかる費用の免除・減額を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			885			23	48	956
実施延日数	22	従事者延数	308	支出総額(円)	2508626		(内訳) 健康診断料			
特記事項	連携している 団体・機関名	就労継続B型事業所 (ラポールあおい、ラポールチャクラ、富士見作業所、日本平学園、ゆいまある)、母子生活支援施設 (千代田寮)、軽費老人ホーム (白寿荘)、養護老人ホーム (静岡老人ホーム)、救護施設 (静岡市救護所) 等								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

施設名	支部、静岡済生会総合病院、静岡医療福祉センター成人部・児童部、伊豆医療福祉センター、静岡県川奈臨海学園、静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家、小鹿苑、静岡市桜の園、ワーク春日									
------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	支部内各施設における無料健康相談会		内容	健康・医療相談 ()						
概要	福祉事務所、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、各施設内にて、生活困窮者を含む地域住民を対象に医師等による健康相談及び健康診断を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							53	53
実施延日数	3	従事者延数	13	支出総額(円)			(内訳) 支出なし			
特記事項	連携している 団体・機関名	伊豆の国市、静岡県東部健康福祉センター、静岡市介護支援専門員協会、静岡県難病団体連絡協議会他								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)									

2 静岡県済生会監査室

組織活動に伴うコンプライアンスと説明責任の重要性の認識が高まる中、社会福祉法人においても内部統制の一層の強化が求められることとなり、実効性の高い監査のあり方をめぐる社会的な要請が強まっている。このような視点に立ち、平成 24 年度に発足した内部監査を所管する監査室は、昨年度に引き続き関係法令等、本部・支部の各種規程に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導を行うために下記の監査を実施した。

(1) 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施した。

- 定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施する。
- 決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施する。
- 随時監査 会長または監事が必要と認めるときに実施する。

・定期監査・・・8施設

施設名	監査日
静岡県川奈臨海学園	平成 26 年 1 月 31 日
小鹿なでしこ苑	平成 26 年 2 月 10 日
小鹿苑	平成 26 年 2 月 13 日
静岡市桜の園	平成 26 年 2 月 12 日
静岡医療福祉センター児童部	平成 26 年 2 月 17 日
静岡医療福祉センター成人部	平成 26 年 2 月 17 日
訪問看護ステーションおしか	平成 26 年 3 月 11 日
静岡済生会看護専門学校	平成 26 年 3 月 11 日

・決算監査・・・会計事務所等による会計監査及び監事監査・・・全施設

	開催日	対象
監査法人及び会計事務所による会計監査	平成 25 年 4 月 22 日、23 日 平成 25 年 4 月 23 日	静岡済生会総合病院 福祉施設等
監事監査	平成 25 年 4 月 25 日	全施設

(2) 行政機関による指導監査及び実地指導等への立会い

・東海北陸厚生局立入検査・・・施設

施設名	監査日
静岡医療福祉センター児童部	平成 25 年 7 月 5 日

・静岡県、静岡市による指導監査

施設名	実施機関	監査日
静岡県川奈臨海学園	静岡県	平成26年2月6日
小鹿なでしこ苑	静岡市	平成26年2月18日
小鹿苑	静岡市	平成26年2月19日
静岡市桜の園	静岡市	平成26年2月20日
静岡医療福祉センター児童部	静岡市	平成26年2月25日
静岡医療福祉センター成人部	静岡市	平成26年2月25日

・静岡県、静岡市による実地指導・・・施設

施設名	実施機関	監査日
いこいの家	静岡市	平成25年9月11日
静岡医療福祉センター児童部	静岡市	平成25年10月15日
小鹿苑	静岡市	平成25年11月12日
訪問看護ステーションおしか	静岡市	平成25年11月12日

・保健所立入検査・・・施設

施設名	実施機関	監査日
静岡医療福祉センター児童部	静岡市	平成25年11月13日

(3) 済生会本部訪問調査への立会い

施設名	実施機関	監査日
静岡済生会総合病院	監査法人 トーマツ	平成25年11月1日
小鹿苑	〃	〃

3 静岡済生会総合病院（病院等事業）

基本理念

- ・私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

平成 25 年度目標及び結果

- 優秀な人材の確保
 - ・救命救急センター長の配置。
- 働きやすい環境
 - ・職員旅行の実施、連続 3 日間の有休休暇の取得を促進。
- 安定した経営
 - ・安定した財源による新館建築の遂行のため、病床稼働率の向上等に努めた。
- 安心・安全・高機能な急性期医療の提供
 - ・医療秘書の増員を図り、医師・看護師の診療補助業務を軽減した。
- 患者さん・連携医へのサービス向上
 - ・開業医、医療機関への広報誌(医力)の配布を増刷した。
 - ・売店をコンビニエンスストア(ミニストップ)へ変更。

静岡県中部地域の中核病院（昭和 23 年 6 月 1 日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか病診連携の強化・地域福祉サービス事業の運営・活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

医療の質及びサービスの向上を図るため、医師等職員の確保、看護職員の定着対策、医療安全対策の強化に努めた。

そして、エコアクション 21 においてはグリーンカーテン・ピークカット運動を実施し、職員の節電及びエコに対する意識向上を図った。

また平成 27 年度完成を目指し、新南館建築に着手した。

(1) 病院運営事業

無料低額診療施設として、許可病床 534 床の有効利用と 25 科の診療の安定した運営に努めた。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
入院患者総延数	158,931 名	156,032 名
1 日平均入院患者数	435.4 名	427.5 名
入院患者 1 人 1 日当りの診療費	57,060 円	57,700 円
外来患者総延数	228,496 名	227,227 名
1 日平均外来患者数	936.5 名	927.5 名
外来患者 1 人 1 日当りの診療費	13,295 円	12,653 円

(2) 救命救急センター運営事業・地域災害医療センター事業等

昭和 55 年 7 月 1 日より業務開始された救命救急センターに、医師・看護師・診療放射線技師・臨床検査技師及び事務員を配置し、休日夜間など 24 時間体制で治療を行った。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
救急外来患者	14,013 名	15,656 名
入院患者	3,764 名	3,865 名
延入院患者	7,953 名	7,589 名
救急医療施設運営費等補助金	126,973,000 円	134,496,000 円
DMA T 研修延べ参加職員	1 名	1 名

(3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
受入研修医数	18 名	17 名
医療関係者研修費等補助金	14,361,000 円	14,314,000 円

(4) 看護師確保対策事業（院内保育所）

看護師の離職を防止し、潜在看護師の再就職を促進するため、院内に保育所を設けて保育士 6 名、保育助手 6 名（うち派遣 3 名）を配置し保育（夜間保育を含む）を行った。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
一日平均利用児童数	22 名	23 名
延べ利用児童数	5,631 名	5,957 名
病院内保育所運営費補助金	5,082,000 円	5,363,000 円

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人の総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
医療福祉相談	6,885 件	6,153 件
心理相談	5,157 件	4,312 件
看護相談	5,107 件	4,226 件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援を拡大した。また、福祉施設職員等を対象に、保健医療に関する研修会を開催した。(3 回開催延べ 138 人参加)

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
無料低額診療事業患者延数	25,376 名	18,830 名

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体または当事者ととともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取り組みを行った。

主な対象者：刑余者（刑務所などを出所した者）、DV 被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
検診等	1069 件	989 件
無料健康相談等	54 件	40 件
啓発活動	159 件	32 件

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に
 応えるため、生活習慣病集団検診・一般健康診断・人間ドック・脳ドック・特
 定健診等を積極的に実施した。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
人間ドック	1,463 名	1,347 名
生活習慣病検診	7,733 名	7,426 名
婦人検診（子宮がん検診）	1,109 名	1,357 名
乳がん検診（マンモグラフィ）	745 名	668 名
〃（エコー）	647 名	670 名
脳ドック	57 名	71 名

(9) 病院駐車場事業

身体障害者を雇用して、病院南側駐車場（駐車可能台数 75 台）を管理運営する
 ことにより、障害者の自立促進に努めるとともに、病院・福祉施設利用者の利便性
 の向上を図った。施設設備計画に伴い休止(12月～3月)0台

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
一日平均利用台数	226.4 台(4～11月)	236.2 台
収支差	5,620,222 円	7,134,099 円

(10) 岡本一男記念基金事業

静岡県済生会に勤務する職員が行う医学的研究・研修に対し助成するとともに、
 優れた業績の顕彰を行い、福祉・医療の向上を図った。

(医学の研究・研修・福祉医療活動 等)

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
助成金	352,275 円	448,125 円

(11) ナーススクール事業

将来の生き方や職業の選択について考えている、主に静岡市内の小・高校生を対象として、保健・医療・福祉への理解を深めるため、ナース体験等の研修を開催した。

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
小学生参加人数	46 名	38 名
高校生参加人数	80 名	94 名

(12) 第 3 次医療圏再生推進事業

第 3 次医療圏再生推進事業費補助金の交付により、平成 23 年度から平成 28 年度にかけて南館 B 棟建て替えをはじめとする施設整備及び設備整備を行っている。25 年度については、施設整備については実施設計及び旧南館 B 棟の切り回し工事、解体工事、設備整備については、集中治療室ベッドサイドモニター他の更新を行った。

4 静岡医療福祉センター児童部 (病院等事業)

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

平成 25 年度目標及び結果

①医師の確保

- ・採用 0 名、退職 1 名 (非常勤)

②看護師の確保

- ・採用 2 名、退職 2 名

③経営の健全化

- ・患者数の確保 1 日平均 入院 50.9 名(目標 55 名) 外来 188.5 名(目標 180 名)
- ・施設基準の引き上げに関しては、看護師確保が思うように進まず実施できず。

④職員の質の向上及び早期離職防止を図る

- ・職種別の資質向上のため専門研修への積極参加
リハ科スタッフのボイタセラピスト講習会への参加、ボバース法の長期研修への参加
看護師の感染対策支援セミナー等への参加など多数の研修会・講習会へ参加 など

⑤特定・障害児相談の指定を受け計画相談の実施

- ・困難ケース対応中心に 46 件の計画相談の実施

(1) 医療型障害児入所施設事業 (一種事業) (定員 60 名)

入所児及び通院児に対し、リハビリテーションを中心にした専門的医療・教育・施設内保育・生活指導等の「総合療育」を実施した。従来の肢体不自由児療育に加え、近年発達障害児の増加も顕著であり、利用者からの幅広いニーズに応えた。入所児数及び外来患者数は前年と変わらない数となった。

(入 所)		(外 来)	
定 員	60 名 (60 名)	年間延患者	45,624 名 (45,913 名)
年間入所児童数	64 名 (60 名)	年間診療日数	242 日 (243 日)
年間退所児童数	65 名 (62 名)	一日平均患者数	188.5 名 (188.9 名)
年間延在所児童数	18,578 名 (18,367 名)		
一日平均在所児童数	50.9 名 (50.3 名)		

ア 地域生活支援事業

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整

支援等延件数 596名 3,011件 (2,299件)

肢体不自由児療育指導相談所（静岡県肢体不自由児協会）

1年 1回 (2回)

イ 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等
- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

支援等延件数 169名 210件 (249件)

ウ 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

支援等延件数 88名 354件 (328件)

エ 施設支援一般指導事業

- ・療育研修会、障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

支援回数 30回 (26回)

(4) 日中一時支援事業（公益事業）

在宅福祉を担当する相談支援員を中心に、医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援事業を実施した。

年間合計 24名 (32名)

(5) 高校生リハビリテーション体験スクール

「高校生リハビリテーション体験スクール」の開催

・8月1日、8月2日 合計 67名 (29名)

(6) 研修室・会議室等利用状況

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を行う。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

- ・社会福祉関係機関の研修会等 2,629名 (1,272名)
- ・福祉団体、ボランティア関係等の会議・講習会 3,595名 (2,953名)
- ・当福祉施設の見学研修等 280名 (895名)

イ 宿泊施設利用状況

延数 20名 (32名)

5 静岡医療福祉センター成人部 (社会福祉事業)

基本理念

- ・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

平成 25 年度目標及び結果

- (目標) ①豊かな生活を整えるため、日中活動の充実を図る。
②利用者の入院日数の減少を目指す。

- (結果) ①余暇活動においては新たにカラオケ、園芸活動を加えた。
運動活動の中では、障害者スポーツ大会に参加に向け、目標を持って活動を行った。(大会は、台風のため中止となる。)
生活の幅を広げる活動としては、市街地にある施設の特色を生かし、自ら買い物等に行けるよう、個別に地域へ出かける外出訓練を実施した。
- ②利用者の健康管理を推進するため、看護師を増員 (非常勤 0.5 人から常勤 1 名に) し、健康、咀嚼、栄養等テーマに歯科医、看護師、栄養士等による健康教育を実施した。
しかし、入院日数の減少には至らなかった。

- (1) 障害者支援施設 (一種事業) (施設入所支援 60 名、生活介護 60 名)
平成 25 年度からは生活介護 70 名の定員を 60 名に変更した。

・定員	施設入所支援	60 名 (60 名)
・年間入所者数		1 名 (2 名)
・年間退所者数		4 名 (2 名)
・年間延在所者数		20,497 名 (21,625 名)
・一日平均在所者数		56.2 名 (59.2 名)

疾病別人員 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	百分比 (%)
脳 卒 中	39	62.9
その他の脳原性疾患	5	8.1
脳 外 傷	1	1.6
そ の 他	17	27.4
計	62	100.0

月別在所者数 (名)

年 月	初日在籍者数	延人数
25 年 4 月	59	1,710
5 月	61	1,761
6 月	61	1,708
7 月	61	1,752
8 月	61	1,748
9 月	61	1,676
10 月	61	1,724
11 月	60	1,666
12 月	60	1,734
26 年 1 月	60	1,746
2 月	60	1,560
3 月	60	1,712
合 計	724	20,497
月平均	60.3	1,708.1
一日平均		56.2

(2) 障害福祉サービス事業 (短期入所) (二種事業) (空床)

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドを利用して実施した。

・年間延利用者人数 570 名 (324 名)

1 日あたり 1.6 名

※ () 内は平成 24 年度実績

6 静岡医療福祉センターライトホーム（二種事業）（入所 10 名、通所 10 名）

基本理念

- ・三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い利用者の自立更生をはかる。

平成 25 年度目標及び結果

- ① 利用者（施術者）の確保
新規利用者 2 名採用、退所者 2 名
- ② 経営の安定化
患者数の確保 利用客数 2,747 名 (2,421 名)
- ③ マッサージの無料奉仕の実施
平成 25 年 9 月 8 日(日)に実施

(1) 盲人ホーム事業(二種事業)

入所者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

・定員	20 名 (20 名)
・年間新入所者数	2 名 (1 名)
・年間退所者数	2 名 (2 名)
・年間延在所者数	1,604 名 (1,359 名)
・一日平均在所者数	5.22 名 (4.09 名)

疾病別人員 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

疾病分類	入所実人員 (名)	通所実人員 (名)	百分比 (%)
先天性視覚障害者	2	0	28.6
中途視覚障害者	1	4	71.4
計	3	4	100.0

月別在所者数

年 月	入所者延人数 (名)	通所者延数 (名)	延人数 (名)
25年 4月	90	22	112
5月	93	22	115
6月	90	36	126
7月	93	49	142
8月	93	46	139
9月	90	43	133
10月	93	49	142
11月	90	45	135
12月	93	44	137
26年 1月	93	42	135
2月	84	58	142
3月	80	66	146
合 計	1,082	522	1,604
月平均	90.2	43.5	133.7
一日平均	3.0	2.2	5.2

(年間通所日数 242日)

7 静岡市発達障害者支援センター (公益事業)

基本理念

- ・直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体と連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター事業インストラクター養成研修等の支援を行っていく。

平成 25 年度目標及び結果

- ① 静岡市健康づくり推進課・保健福祉センター保育課との連携
 - ・すくすくファイルの使用の仕方説明会 親子教室へのスタッフ派遣 6 回
 - ・静岡版早期発達支援プログラムの普及 研修会の開催 6 回
 - ・健診医師・保健師・心理士のための専門研修会 2 回
 - ・ペアレントメンター派遣 3 回 など
- ② 保育士、学校支援員、支援員研修会、保育園幼稚園学校単位の内部研修会及び相談会の実施 合計 32 回
- ③ ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実
 - ・静岡市特別支援教育連携協議会 本会議・専門部会 計 8 回
 - ・静岡市子ども・若者支援地域協議会 本会議・事務担当者会議 計 5 回

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

(1) 発達障害者支援センター事業(公益事業)

ア 発達障害児者、その家族及び関係機関等に対する相談支援

実支援人員 576 名 (地域内 559 名、地域外 17 名) (672)
 延支援件数 875 件 (地域内 855 件、地域外 20 件) (841)

イ 発達障害児者及びその家族等に対する発達支援

実支援人員 227 名 (564)
 延支援件数 1,072 件 (1,632)

ウ 発達障害児者に対する就労支援

実支援人員 78 名 (70)

実支援件数 187 件 (145)

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

(ア) センター主(共)催で企画した研修 実施回数 33 回 (22)

延参加人数 1,955 名 (1,597)

(イ) 外部からの講師依頼による職員派遣 派遣回数 31 回 (47)

延参加人数 1,035 名 (1,912)

(ウ) 連絡協議会・調整会議の開催回数 実施回数 39 回 (41)

延参加団体数 897 団体 (776)

(エ) 機関コンサルテーション支援 実施支援箇所数 24 箇所 (29)

(オ) 個別支援のための調整会議の開催回数 実施回数 281 回 (590)

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業

ア ペアレントメンター(地域サポーター)養成研修 実施回数 7 回 (6)

延参加人数 388 名 (304)

イ 支援体制サポート強化事業による巡回

(ア) 保育園幼稚園への訪問支援 訪問箇所数 20 園 (21)

延参加職員数 615 名 (771)

(イ) 小中学校への訪問支援 訪問箇所数 11 校 (5)

延参加職員数 296 名 (135)

8 伊豆医療福祉センター（病院等事業）

基本理念

- ・私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・満足を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組みます。

平成25年度目標及び結果

目標

- ・重症心身障害に関わる医療・福祉の向上を図る。
- ・在宅の障害児者を支援する。
- ・職員の質の向上を図る。
- ・施設整備を図る。

結果

- ・ひとつひとつの看護・介護行為は、安全を心がけ、丁寧に実施した。安全対策委員会・感染防止委員会等開催し、防ぐことのできる事故を起こさないよう努めた。
- ・短期入所・日中一時支援事業及び障害児者の通所事業を実施した。また、コーディネーターを配置し、在宅の障害児者の相談支援事業を実施した。
- ・重度・重症児（者）医療・療育講習会他へ職員を参加させ、職員の医療・療育技術の向上を図った
- ・大規模修繕工事を完了した。

（1）医療型障害児入所施設・療養介護事業所（一種事業）（定員計43名）

県の指定管理者制度が終了し、静岡県済生会が運営主体となって2年目であった。入所者は児童が10名、成人が22名となっており、成人の割合が児童を上回っている。（指定管理者制度：H18.4.1～24.3.31）

入所における療育支援のほか、外来では、脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児（者）歯科による専門診療を実施した。また、在宅重症心身障害児（者）の通所事業、短期入所事業（日中一時支援事業を含む）、障害児（者）地域療育支援センター事業等を実施し、静岡県東部の障害児（者）の総合的な療育支援を担っている。

(入 所)

(外 来)

- ・定 員 43 名 (43 名)
- ・年間入所児童(者)数 4 名 (0 名)
- ・年間退所児童(者)数 3 名 (0 名)
- ・年間延在所児童(者)数 10,860 名 (10,905 名)
- ・一日平均在所児童(者)数 29.7 名 (30.0 名)
- ・年間延患者数 23,455 名 (24,273 名)
- ・年間診療日数 275 日 (284 日)
- ・一日平均患者数 85.3 名 (85.5 名)

疾病別人員 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	百分比 (%)
脳性麻痺	21	65.6
その他	11	34.4
計	32	100.0

月別在所児童(者)数

年 月	初日在籍者数 (名)	延人数 (名)
25 年 4 月	30	860
5 月	30	923
6 月	31	900
7 月	31	953
8 月	30	901
9 月	30	898
10 月	30	904
11 月	30	888
12 月	31	931
26 年 1 月	31	955
2 月	31	826
3 月	30	921
計	365	10,860
月 平 均	30.4	905.0
一 日 平 均		29.7

(2) 障害児通所支援事業 (児童発達支援) (二種事業)

- ・定 員 7 名 (7 名)
- ・年間延通所児童 678 名 (523 名)
- ・一日平均通所児童数 7.1 名 (5.1 名)
- ・年間通園日数 96 日 (102 日)

(3) 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

・定員	5名	(5名)
・年間延通所児数	400名	(518名)
・一日平均通所児数	3.1名	(4.5名)
・年間通園日数	129日	(115日)

(4) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

(5) 日中一時支援事業（地域生活支援）（公益事業）

・年間延利用人数	1,870名	(1,337名)
・一日平均利用人数	5.1名	(3.7名)
・年間実施日数	365日	(365日)

短期入所・日中一時支援の合計

(6) 特定相談支援事業・障害児相談事業（二種事業）

ア 特定相談支援事業・障害児相談事業

平成25年11月より、事業を開始し、相談支援専門員1名を配置し、計画相談等による支援を実施している。また障害児（者）が充実して暮らせる街づくりを目指し、行政機関・自立支援協議会との連携を図った。

計画相談等 10回

イ 静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業

本事業におけるコーディネーターの設置については廃止となり、療育三事業のみとなった。登録された障害児（者）を対象とし、在宅訪問・外来・施設支援等に対し、医師・PT・OT・ST・心理士・管理栄養士・看護師・保育士等を派遣し、在宅障害児（者）の療育指導を引き続き実施した。

・在宅支援訪問療育指導事業	70回	(101回)
・外来療育等指導事業	203回	(117回)
・施設支援一般指導事業	37回	(140回)
・地域生活支援事業（廃止）	0回	(156回)
・各種連絡会・自立支援協議会等参加	55回	(54回)

ウ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業

自閉症、注意欠陥多動性障害等がある発達障害児（者）に対し、訪問・外来・電話等の方法で、ライフステージに応じた生活を支援するため地域での福祉サービスの情報提供、また、学校・保護者を含む関係機関との調整会議への参加を実施してきた。また、県発達障害者支援センターの主催する研修会へのスタッフ参加、賀茂地区の発達障害に関する巡回相談を3回実施した。

療育3事業については地域療育支援センター事業と合同で行っている。各種連絡会等への参加は、前項に合算している。

- ・地域生活支援事業（電話相談含む） 305回（613回）

9 静岡県川奈臨海学園 (社会福祉事業)

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが、尊重され、心身ともに健やかに育成され、将来健全な社会の一員として、自立できるよう支援を行う。

平成 25 年度目標及び結果

目標

- ①児童各自についての支援目標は、「自立支援計画票」を作成し、保護者、学校関係、各担当児童相談所と協力し、目標達成に繋げる。
 - ・各児童について、「自立支援計画票」を作成し、児童相談所等の関係機関、保護者と検討会をもち、支援目標とする、家族再統合や進路について、達成に繋げた。
- ②発達の保障と自立支援について、中学校 (中学校卒業予定 4 名) を卒業する児童の進路を決定する。
 - ・中学校を卒業する児童 (4 名) について、当施設からの高校進学 2 名、措置変更による高校進学 1 名、職業訓練校 1 名と進路も決定となり、それぞれが進学や職業訓練という新しい環境の下、将来、社会の一員として自立できるよう支援をした。
- ③家族との連携及び協働について、家族再統合のできる家族の調整をする。
 - ・担当職員が、児童相談所職員と協力体制をとり、入所児童の家族との話し合い、相談等に応じ、家族再統合を目標に支援を行った。
- ④厚生労働省の「児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進」について、関係機関及び行政との連携、静岡県との相談のうえ、施設の建替えを視野に入れ検討し進める。
 - ・行政、法人支部との検討会を持った。施設の建替えも含め、「家庭的養護推進計画」を策定する中で、26 年度も引き続き検討課題とする。

(1) 児童養護施設運営事業 (一種事業)

虐待を受けた児童が増加する中、2 才児から高校生まで月平均 63.7 名の子ども達に対し、職員全体がかかわりながらより良いケアに努力した。

・定員 (暫定定員)	80 名	暫定定員 77 名	(80 名)
・年間入所児童数	6 名		(15 名)
・年間退所児童数	10 名		(8 名)
・年間延在所児童数	23, 186 名		(22, 795 名)
・一日平均在所児童数	63.4 名		(62.4 名)

入所理由別人員 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

入 所 理 由	年間取扱実人員 (名)	百分比 (%)
慢 性 疾 患	9.0	14.1
精 神 疾 患	8.0	12.6
養 護	46.7	73.3
計	63.7	100.0

月別在所児童数

年 月	初日在籍者数 (名)	延人数 (名)
25 年 4 月	63	1,890
5 月	63	1,953
6 月	63	1,890
7 月	63	1,953
8 月	63	1,943
9 月	63	1,890
10 月	63	1,953
11 月	63	1,877
12 月	66	2,038
26 年 1 月	65	2,015
2 月	65	1,820
3 月	65	1,964
計	765	23,186
月 平 均	63.7	1,932.2
一 日 平 均		63.4

ア 小規模グループケア

小規模グループケア棟で定員 6 名、専任職員と本体施設職員がシフトを組み、児童との関係を密接にし、ケアの内容を深めた。

イ 乳幼児受け入れ

川奈幼稚園や近隣地域と連携を取り、理解と協力を得ながら、積極的な乳幼児の受け入れを行った。(月平均 14.2 名在園)

(2) 病児・病後児保育事業

- ・登録児童数 675 名 (638 名)
- ・年間利用延児童数 243 名 (238 名)
- ・月平均利用児童数 20.3 名 (19.8 名)

10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家（社会福祉事業）

基本理念

いこいの家は児童憲章の精神を尊び、障がいのあるこども、又はその可能性のあるこどもが地域で育つ時に生じる様々な問題や発達の基盤である家庭生活への支援により、こども達の健やかな育ちと安心、安全な生活の達成に努めます。

平成 25 年度目標及び結果

平成 25 年度は児童発達支援センターとしてスタートした。指定管理の必須事業とされた相談支援事業と保育所等訪問支援事業に専任の職員を配置し、内容の充実が図られた。また、通園事業に関しても個別支援計画、支援記録等の見直しを行い、通園児をはじめ家族に寄り添いきめ細やかな発達支援に取り組めた。

ネットワークづくりに関しては、静岡市内の児童発達支援事業所に呼びかけ、児童発達支援連絡会を主催し充実した意見交換ができた。

今後も地域の療育機関として中核的役割を果たし、発達の心配な子ども達への支援を強化していきたい。

(1) 障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。

・入園児数（定員）	50 名	(50 名)
・年間新入所児童数	23 名	(19 名)
・年間退所児童数	15 名	(19 名)
・年間延在所（通園）児童数	9,030 名	(9,494 名)
・一日平均在所（通園）児童数	37.2 名	(40.9 名)

疾病別人員

（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

病 名	年間取扱実人員（名）	百分比（%）
脳 性 麻 痺	8	16.0
自閉症(自閉傾向を含む)	17	34.0
精神遅滞(発達遅滞を含む)	5	10.0
染色体異常(ダウン症他)	7	14.0
その他	13	26.0
計	50	100.0

月別在所児童数

年 月	初日在籍者数	延人数		
25年	4月	50	605	
	5月	50	767	
	6月	50	766	
	7月	50	814	
	8月	50	712	
	9月	50	758	
	10月	50	822	
	11月	50	754	
	12月	50	692	
	26年	1月	50	768
		2月	50	773
		3月	50	799
合 計	600	9,030		
月平均	50	752.5		
一日平均		37.2		

(年間通所日数 243日)

(2) 地域療育相談事業

ア 療育相談の実施(随時) 64名(72名) 電話来所相談 244名(246名)

イ 障害相談支援事業・特定相談支援事業

障害児支援利用計画	12件
モニタリング	1件
一般相談	106件
電話相談	301件
訪問支援	37件

ウ 親子教室 年間238回(月平均19.8回) 146名(166名)

参加児延数 1,862名(2,222名)

エ 障害児通所支援事業(保育所等訪問支援)

訪問相談	6件
来所相談	16件
電話相談	31件

(3) 地域交流等

地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流を実施した。

- ・いこいの家通信発行 12回(12回) 360部(360部)
- ・夏祭り参加者 505名(422名)
- ・城東保健福祉エリア地域交流まつり参加者 約5,000名(約5,000名)
- ・実習生受入 31名(14名) 延253名(146名)
- ・体験研修受入 17名(36名) 延17名(53名)
- ・ボランティア受入 個人27名 団体58名 延387名
(21名) (62名) (460名)

1 1 小 鹿 苑 (社会福祉事業)

基本理念

・私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

平成 25 年度目標及び結果

目標

- ①良好な生活環境を保持し、快適な暮らしの提供に努める。
ご利用者一人ひとりの空間を大切に、整理、整頓、清掃、清潔の保持を徹底する。
- ②事業間における情報共有によりの確な支援を提供する。
的確な報告、連絡、相談、打ち合わせを実行する。
- ③安定した運営のために各事業が目標数値を達成する。

特養部	1 日平均在所者	79 名
短期入所部	1 日平均利用者	17 名
通所介護部	1 日平均利用者	28 名
訪問介護部	1 日平均利用者	28 名
地域包括支援センター	月平均件数	300 件
居宅介護支援	月平均件数	120 件

結果

- ①ベッドの間に間仕切りを入れるなどの改装により、今までより個々に明るくメリハリのある快適な空間を提供できるようになったが、ご利用者が集う共有スペースが整備できなかったという課題が残った。
- ②報告、連絡、相談、綿密な打ち合わせを行うことにより、職員一人ひとりの意識が改善され、情報共有することにより事業間の連携による支援に数段の進歩が見られた。
- ③特養部については、新規利用者の入所に手間取り、空床日数を削減できなかった。短期入所部については、1 名の利用日数を増やすことにより目標を達成できた。在宅サービスについては、各事業共に新規利用者を獲得できず目標を達成できなかった。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80名定員（80名）

居室等のリニューアルを行い、より個に配慮した居室環境となった。
ポジショニングを導入することにより介護度の高い方のQOLの向上を目指す取り組みを行った。

新規の入所申込が70件あり、平成25年度末現在で入所希望者は135名（273名）である。

・年間新入所者数	29名（22名）
・年間退所者数	28名（22名）
・一日平均在所者数	77.4名（77.6名）
・入所者平均年齢	83.8歳（83.2歳）
・平均介護度	3.6（3.4）

疾病別人員（平成25年4月1日～平成26年3月31日現在）

病名	年間実人員（名）	百分比（%）
脳卒中等	40	37.0
認知症等	43	39.8
心疾患等	3	2.8
リウマチ、脊椎症等	10	9.3
その他	12	11.1
計	108	100.0

(2) 短期入所事業（二種事業） 定員20名（20名）

施設入所等により30名利用者が減少し、新規利用者は41名であった。
例年どおり、週末・連休期間の希望者は多数であった。また、一人年間利用日数は平均53.6日（48.1日）であった。

・年間延利用者数	6,384名（5,437名）
・月平均延利用者数	532名（453名）
・一日平均利用者数	17.5名（14.8名）
・利用者平均年齢	85.2歳（84.6歳）
・平均介護度	3.3（3.3）

(3) 通所介護事業（二種事業） 定員一日名（35名）

通常規模型（月次301名以上750名以下）でサービスを行った。
施設入所等により30名の利用者が減少し、新規利用者は22名であった。

・年間延利用者数	7,175名（7,893名）
・月平均延利用者数	597.9名（657.7名）
・一日平均利用者数	23.4名（25.7名）
・年間実施日数	307日（307日）

- ・利用者平均年齢 86.5 歳 (86.0 歳)
- ・平均介護度 要支援 1.7 要介護 2.1 (要支援 1.7、要介護 2.2)

(4) 訪問介護事業 (二種事業)

18 名 (17 名) のホームヘルパーが稼動した。施設入所等により 31 名の利用者が減少し、新規利用者は 34 名であった。

- ・年間延利用者数 7,838 名 (8,126 名)
- ・月平均延利用者数 653.2 名 (677.1 名)
- ・一日平均利用者数 25.1 名 (26.3 名)
- ・年間活動日数 312 日 (308 日)
- ・利用者平均年齢 80.0 歳 (81.2 歳)
- ・平均介護度 2.8 (2.4)

(5) 地域包括支援センター運営事業 (公益事業)

静岡市からの受託事業であり、主に地域支援事業と指定介護予防事業を行った。西豊田、東豊田、東源台小学校区を担当し、高齢者の方からの総合相談、介護保険要支援認定者の予防プラン作成を行い、関係機関や民生委員との連携により問題解決に努めた。

支援困難ケースについて、その取り組みの検討や、地域課題の抽出を目的とした地域ケア会議を実施した。

- ・年間延相談者数 1,077 名 (1,129 名)
- ・月平均相談者数 89.8 名 (94.0 名)
- ・一日平均相談者数 3.5 名 (4.6 名)
- ・介護予防支援 (直営・委託) 3,841 件 (3,468 件)
- ・年間活動日数 308 日 (245 日)

(6) 居宅介護支援事業 (公益事業)

4 名 (5 名) のケアマネジャーが稼動し、ケアプランを作成した。要介護認定調査は年間 101 件 (123 件) であった。

- ・年間ケアプラン給付管理者延数 1,344 件 (1,359 件)
- ・月平均数 112 件 (113.3 件)
- ・ケアプラン新規作成者 56 名 (39 名)
- ・平均介護度 2.6 (2.6)

月別在所（利用）者数

区 分	特 養		短 期		デイサービス		ホームヘルパー		地域包括支援センター	
	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
25年4月	80	2,311	61	476	82	621	67	675	103	131
5月	81	2,439	62	554	80	620	70	678	69	83
6月	81	2,342	64	505	80	609	68	623	61	82
7月	81	2,424	65	511	81	647	68	726	92	101
8月	81	2,389	71	558	77	648	71	717	60	77
9月	82	2,278	68	513	78	578	67	609	49	64
10月	81	2,448	71	543	74	658	67	671	59	78
11月	81	2,291	68	532	76	593	70	635	120	130
12月	78	2,340	73	620	75	541	72	621	53	81
26年1月	80	2,439	59	534	73	550	69	650	62	91
2月	81	2,154	61	517	75	532	69	622	54	68
3月	81	2,400	58	521	73	598	67	611	66	91
合計	968	28,255	781	6,384	924	7,175	825	7,838	848	1,077
月平均	80.7	2,354.6	65.0	532.0	77.0	579.9	68.8	653.2	70.7	89.8
一日平均	77.4		17.5		23.4		25.1		3.5	

1 2 小鹿なでしこ苑 (社会福祉事業)

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく

平成 25 年度目標及び結果

- ①ハウレンソウ (報告・連絡・相談) を徹底し、情報を共有する。
 - ・イントラネット及び事務所内の掲示板の設置をし、情報共有に努めた。
- ②介護技術の向上に努め、サービスの質の向上を目指す。
 - ・採用時研修の強化、苑内研修の内容の充実を図った。また、苑外研修に延べ 91 名が 72 講座に参加し、コンプライアンスや介護技術の向上を図ることに努めた。
- ③利用者の立場で考えることを実行する。
 - ・ユニットリーダー会議、ユニット会議等において、サービスの改善について検討を重ねた。
- ④「自分がその立場だったら」から、言動・行動を選択する。
 - ・苑外研修に参加し、伝達講習を行なった。
- ⑤自己啓発を実行し、専門職の力量を高める。
 - ・社会福祉士・介護福祉士・ケアマネジャー資格取得のための勉強会を開催し、資格取得や技術力アップを図った。
- ⑥1 年間の目標を定め、それに向け努力する。
 - ・ユニットごとに研究課題を定め、苑内で研究発表会を行った。また、「ふじのくにフェスタ」で介護技術コンテストへの参加や、「第 14 回静岡県社会福祉研究会」で研究発表を行った。
- ⑦提供したサービスの反省を行い、サービスの質の向上に努める。
 - ・各ユニットにおいて、個人のカンファレンスを行い、提供したサービスについての成果をモニタリングし、必要に応じサービス内容を変更した。
- ⑧コストの削減に努める。
 - ・オムツはずしの更なる推進、省エネ運動の継続、共同購入や一括購入等による更なるコストの削減に努めた。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業 (一種事業) 定員 96 名 (96 名)

昨年度は初年度だったため一日平均在所者数が少なかったものの、2 年目となり安定した稼働となっている。平均介護度は徐々に上がっている。

・年間新入所者数	15 名	(110 名)
・年間退所者数	16 名	(14 名)
・一日平均在所者数	94.9 名	(89.6 名)
・入所者平均年齢	84.6 歳	(83.5 歳)
・平均介護度	3.3	(3.2)

(2) 短期入所事業（二種事業） 定員 12 名 (12 名)

徐々に登録者数が増え一日平均利用者数も増えていった。今後は、日中活動のさらなる充実等のサービス向上を図り、より利用しやすい環境整備を行なっていく。

・年間延利用者数	3,777 名	(2,669 名)
・月平均延利用者数	314.8 名	(179.6 名)
・一日平均利用者数	10.3 名	(7.3 名)
・利用者平均年齢	85.2 歳	(85.4 歳)
・平均介護度	3.4	(2.9)

(3) 通所介護事業（二種事業） 定員一日 12 名 (12 名)

認知症対応型のデイサービスは通常型のデイサービスに比べて、単価が高いため利用日数が制限されることや、介護度が高いため施設入所や短期入所の利用で在籍期間が短くなることなどのため、登録者数・一日平均利用者数を増やすことが難しい状況であった。サービス内容の見直しを行い、登録者数を増やし稼働率のアップを図る。

・年間延利用者数	1,720 名	(1,766 名)
・月平均延利用者数	143.3 名	(147.2 名)
・一日平均利用者数	5.6 名	(5.7 名)
・年間実施日数	307 日	(308 日)
・利用者平均年齢	82.9 歳	(83.3 歳)
・平均介護度	2.7	(2.2)

月別在所（利用）者数

区分 年 月	特 養		短 期		通 所	
	人数※	在所者延人数	人数	利用者延人数	人数	利用者延人数
25年4月	96	2,858	35	277	19	168
5月	96	2,976	33	321	19	174
6月	95	2,872	36	315	18	149
7月	93	2,895	36	295	18	160
8月	94	2,937	35	336	18	157
9月	95	2,866	34	309	18	138
10月	95	2,967	31	312	20	154
11月	93	2,860	39	308	19	120
12月	94	2,879	36	341	18	116
26年1月	95	2,905	32	318	16	107
2月	95	2,676	33	291	19	131
3月	95	2,956	34	354	19	146
合計	1,136	34,647	414	3,777	221	1,720
月平均	94.7	2,887	34.5	314.8	18.4	143.3
一日平均	94.9		10.3		5.6	

※月末入所者数

1 3 静岡市桜の園 (社会福祉事業)

基本理念

「あなたらしさを応援します」

- ・人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。

平成 25 年度目標及び結果

目標・質の高いサービスを提供するために日中活動の充実強化を図り、地域に開かれた施設づくりを目指す。

- 結果**・活動的に過ごしたいという利用者のニーズにこたえるために、個々の希望を募り、日中活動のプログラム化に取り組んだ。
- ・利用者の人権擁護に関わる身体拘束、虐待防止の要綱を作成し組織的に取り組んだ。また、静岡市の要請の下、被虐待者の短期入所の受け入れを行った。
 - ・年 2 回の施設主催のお祭り (夏祭り・秋桜祭)、地域防災訓練などを通じ地域の町内会と交流を行った。

(1) 身体障害者支援施設事業 多機能型 (一種事業) (定員 115 名) (115 名)

ア 施設入所支援 (定員 50 名)

イ 施設入所をともなう生活介護 (定員 50 名)

利用者主体のサービス体系の確立をすることが、利用者の QOL の向上に最も大切なことを念頭において事業運営を行った。特に個別サービスの充実に重点をおき、個別支援計画の策定、日中活動の充実、グループケアの実施、医務においては年 2 回の健康診断の実施・日常での健康状態の観察、異常の早期発見と迅速な対応を心がけた。OT による集団・個別リハビリの継続・充実。給食においては個人別特別メニュー・お好み夕食・季節のメニュー・小グループでのお鍋などを実施した。また、地域社会との交流については、行事 (夏祭、秋桜祭、防災訓練等) への参加によって交流を深めるとともに、社会福祉教育実践の場として各種養成機関の実習生の受け入れ及び高校生・一般の方々をボランティアとして受け入れた。

- ・利用実績延数 施設入所支援 17,720 名 (16,877 名)
生活介護 12,728 名 (11,955 名)
- ・退所者 2 名 (8 名)
- ・入所者 3 名 (9 名)

疾病別人員

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	百 分 比 (%)
脳卒中	7	14.0
脳性麻痺	20	40.0
脳外傷	7	14.0
脊髄小脳変性症	1	2.0
脊椎損傷	7	14.0
下肢機能障害	4	8.0
その他	4	8.0
計	50	100.0

月別在所 (利用) 者数

(名)

区 分 年 月	入所支援		生活介護	
	人数	延人数	人数	延人数
25 年 4 月	49	1,424	49	1,047
5 月	48	1,467	48	1,091
6 月	48	1,460	48	975
7 月	49	1,541	49	1,143
8 月	50	1,539	50	1,097
9 月	50	1,468	50	1,035
10 月	50	1,524	50	1,138
11 月	50	1,467	50	1,032
12 月	50	1,465	50	1,047
26 年 1 月	49	1,491	49	1,111
2 月	49	1,364	49	982
3 月	49	1,510	49	1,030
合 計		17,720		12,728
月平均		1,476		1,060
一日平均		48.5		48.8

(入所支援日数 365 日・入所生活介護日数 261 日)

ウ 生活介護（定員 50 名）

（生活訓練ホーム 25 名、生活訓練ホーム城北館 25 名）

利用者への支援

- ・ ADL の維持、QOL の向上に関する支援
- ・ グループ活動を通して社会性を高める支援
- ・ 生活圏を拡げ社会参加を促す支援等

家庭への支援

- ・ 安全かつ安心の場の提供
- ・ 各種サービスの実施
- ・ 各種相談の受付

生活訓練ホーム

- ・ 実利用人数 44 名 (25 名)
- ・ 利用実績延数 4,432 名 (3,376 名)

利用者数調

（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

区 分	定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延利用者数	一日平均 利用者数
生活訓練ホーム 静岡市桜の園	25 (25)	22 (3)	3 (0)	4,432 (3,376)	18.2 (13.8)

月別利用者数 (名)

区 分		生活訓練ホーム静岡市桜の園		
年 月		初日在籍者数	延人数	
25 年	4 月	39	365	
	5 月	40	366	
	6 月	40	362	
	7 月	41	409	
	8 月	42	373	
	9 月	44	357	
	10 月	44	418	
	11 月	43	374	
	12 月	42	325	
	26 年	1 月	42	349
		2 月	43	352
		3 月	44	382
合 計		504	4,432	
月平均		42	369.1	
一日平均			18.2	

(年間通所日数 244 日)

生活訓練ホーム城北館

- ・実利用人数 18名 (16名)
- ・利用実績延数 2,803名 (2,722名)

利用者数調 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

区 分	定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延利用者数	一 日 平均利用者数
生活訓練ホーム 静岡市城北館	25 (25)	2 (1)	1 (0)	2,803 (2,722)	11.5 (11.2)

月別利用者数 (名)

区 分	生活訓練ホーム城北館			
	年 月	初日在籍者数	延 人 数	
25年	4月	17	210	
	5月	17	243	
	6月	18	240	
	7月	18	256	
	8月	18	262	
	9月	17	216	
	10月	17	258	
	11月	17	223	
	12月	17	218	
	26年	1月	17	218
		2月	17	225
		3月	17	234
合 計	207	2,803		
月平均	17.3	233.6		
一日平均		11.5		

(年間通所日数 244日)

エ 自立訓練（機能訓練） 定員 15名 (15名)

総合支援法による機能訓練・送迎・入浴・食事のサービスを提供するとともに、利用者のニーズに応じて市内各所への外出等、社会性向上の活動や、専門家による創作的活動等の事業を実施した。

- ・実利用人数 5名 (2名)
- ・利用実績延数 197名 (113名)

(2) 日中一時支援事業（公益事業） 自立訓練（機能訓練）空床利用

日中において一時的な見守りその他の支援が必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供した。

- ・実利用人数 22名 (37名)
- ・利用実績延数 1,000名 (1,973名)

(3) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業） 定員 5名（5名）

5市町から利用があった。新規利用者は13名（7名）であった。定期的に利用する方が増加しており、実利用人数の半数近くに上っている。対応が困難な方に対しては、利用者本人、ご家族の要望を取り入れる工夫をし、適切なサービスを提供するよう努めた。

- ・実利用人数 51名（52名）
- ・利用実績延数 1,096名（1,170名）

月別在所（利用）者数 (名)

区 分	短期入所		自立訓練（機能訓練）		日中一時	
	人数	人数	人数	延人数	人数	延人数
25年 4月	29	122	5	12	22	86
5月	29	139	5	14	22	89
6月	35	115	5	16	22	89
7月	35	94	5	17	22	96
8月	33	86	5	18	21	89
9月	28	83	5	17	21	81
10月	34	101	5	20	21	91
11月	27	69	5	16	21	78
12月	18	49	5	18	21	84
26年 1月	28	63	5	17	21	77
2月	31	83	5	15	19	73
3月	32	92	5	17	18	67
合 計	359	1,096	60	197	251	1,000
月平均	29.9	91.3	5	16.4	20.9	83.3
一日平均		3.00		0.8		4.1

(年間通所日数 244日)

1 4 静岡市心身障害者ケアセンター（社会福祉事業）

基本理念

ひとりひとりが地域の一員として、自立した日常生活を営むことができるよう、利用者が主役となり地域福祉に貢献できる施設を目指します。

平成 25 年度目標及び結果

- ① 利用者の自立の促進・生活の質の向上を図ることができるように、機能訓練、生活訓練において、個別支援計画に則り、利用者とその家族の意向に沿った支援を行う。
 - ・ 個別支援計画、モニタリングに基づいた支援を行った。
- ② 利用者の理解に努め、利用者の立場に立った支援に努める。そのために、必要に応じ個別での面接や自宅への訪問、関係機関との連携を図りながら、利用者や家族の意向の再確認を行う。
 - ・ 希望者に対し個別面談を行い意向の確認、課題の抽出を行った。（自立訓練、日中一時支援とも）
 - ・ 利用者自身が意向を伝えることが苦手な方もおり、家族、関係機関等と連絡・調整しながら連携を図ることができた。
- ③ 希望の多い入浴、送迎についてできる限り希望に添えるよう随時調整をしていく。
 - ・ 入浴については、ニーズに合わせ、随時調整に努めたが新規利用者については、希望に沿うことが困難な状況だった。
 - ・ 送迎については、随時調整しながら送迎可能となった利用者もいたが、利用希望の方については送迎が出来ない為に希望を取り下げの方もいた。

平成 25 年度新たに開始
入浴→4 名 ・ 送迎→8 名（内新規利用者 6 名）
- ④ 新規利用希望の方に対し、迅速な対応に心がけ、相談支援と連携をとりながら、調整に努めていく。
 - ・ 計画相談からの利用に結びつくケースが増え、相談支援が入ることでスムーズに利用開始することが可能となった。

平成 25 年度新規利用者 13 名（知的 6 名・肢体 7 名）

静岡市中心身障害者ケアセンターは、静岡市より指定管理者として自立訓練事業（機能訓練・生活訓練）を実施しており、自立訓練の支給期間が終了し継続利用を希望される方については、空席利用として日中一時支援事業を実施している。

家族構成の変化、利用者自身の身体的、精神的変化等により、意向の変化、支援の見直しが必要な方に対して本人や家族、必要な関係機関と情報の共有を図りながら対応している。

また、併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として市より委託を受け、委託支援事業及び特定相談・障害児相談支援事業を実施している。

疾病別人員 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

病名	年間実人員(名)	百分比(%)
(身体障害)		
脳性麻痺	45	50.0
脳血管障害	15	16.7
脳外傷	5	5.6
脊椎損傷	4	4.4
その他	21	23.3
計	90	100.0
(知的障害)		
知的障害	24	44.4
脳性麻痺	7	13.0
ダウン症	8	14.8
自閉症	11	20.4
その他	4	7.4
計	54	100.0

(1) 障害福祉サービス事業 [自立訓練(機能訓練)] (二種事業) (定員20名)

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡医療福祉センターから訓練スタッフの派遣を受けて実施している。

- 登録者数 機能訓練 15名(11名) ・ 利用実績延数 540名(330名)
- 月別利用者数

区分 年月	機能訓練		区分 年月	機能訓練	
	実人員(名)	延人数(名)		実人員(名)	延人数(名)
25年	4月	11	26年	1月	15
	5月	11		2月	15
	6月	10		3月	15
	7月	10	合計		150
	8月	12			540
	9月	13	月平均		12.5
	10月	12			45
	11月	13			
	12月	13	一日平均		2.2

(年間通所日数 244日)

(2) 障害福祉サービス事業〔自立訓練（生活訓練）〕（二種事業）（定員 10 名）

生活訓練の利用者は、精神障害を合併し就労等への通所が困難になった方や、こだわりが強く配慮の必要な方が利用されている。

- 登録者数 生活訓練 13 名 (11 名) ・ 利用実績延数 549 名 (218 名)
- 月別利用者数

区 分		生活訓練		区 分		生活訓練		
年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)
25年	4月	11	36	26年	1月	13	51	
	5月	11	42		2月	13	49	
	6月	12	41		3月	13	50	
	7月	11	45	合 計	149	549		
	8月	11	43	月平均	12.4	45.8		
	9月	12	39	一日平均		2.3		
	10月	12	48					
	11月	15	54					
	12月	15	51					

(年間通所日数 244 日)

(3) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）

現在、多くの利用者が継続利用を希望され、日中一時での利用となっており、入浴や送迎を希望される方が多く、安全に利用して頂けるように対応している。

- 登録者数 身体利用 75 名 (79 名) 利用実績延数 3,233 名 (3,481 名)
- 知的利用 41 名 (41 名) 利用実績延数 1,762 名 (1,943 名)

月別利用者数

区 分		日中一時支援		区 分		日中一時支援		
年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)	年 月	実人員(名)	延人数(名)
25年	4月	120	459	26年	1月	113	381	
	5月	119	436		2月	115	372	
	6月	118	431		3月	116	400	
	7月	118	465	合 計	1,393	4,995		
	8月	116	445	月平均	116.1	416.3		
	9月	116	385	一日平均		20.5		
	10月	114	438					
	11月	114	408					
	12月	114	375					

(年間通所日数 244 日)

(4) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を主に三障害の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援に関わっている。

(ア) 相談件数 1,425 件 (2,535) (内、ピアカウンセリング 79 件)
相談人員 531 名 (650) (内、ピアカウンセリング 65 名)

(イ) その他の活動 身体障害者生活支援事業 66 回 (41)
・社会資源を活用するための支援 (パソコン教室) 63 回
・社会性活力を高めるための支援 (外出支援等) 3 回

(ウ) 参加会議 主催した個別支援会議 5 回 (35)
参加した個別支援会議 10 回 (6)
連絡調整会議等 17 回 (20)

(年間開所日数 244 日)

イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成 (特定相談・障害児相談支援)

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、
障害福祉サービスの利用 (身体・知的・精神) に関するサービス利用計画書
を作成している。

(ア) 相談件数 1,684 件 (内、児童 5 件)
相談人員 162 名 (内、児童 2 件)

(イ) サービス利用等計画作成
実人員 148 名 (33) ・ 延件数 2,112 名 (187)

15 ワーク春日（社会福祉事業）

基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

（1）就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）

平成 25 年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

平成 25 年度は目標の 1 日平均利用者 27 名を上回る 28.0 名の利用があった。新規利用者は 10 名あったが、退所者が就労の 5 名を含む 13 名あった。利用者の就労ニーズにある程度応えることができたが、今後も利用者の確保には課題が残った。就労移行支援事業の導入を検討したが、B 型事業の定員が満たされず、不安定な要素も多いことから当分は見合わせることにした。授産事業は点字印刷を中心に例年並みの作業を行うことができた。また自主製品の制作・販売、封入などの下請け作業など多くの利用者に関われる作業を取り入れることができた。

利用者数

	利用者数（名）	
定員	30	(30)
一日平均利用者数	28.0	(25.7)

（年間通所日数 246 日）

受注件数

	件数（件）	
点字印刷事業	399	(381)
録音ワープロ速記事業	9	(7)
電話業務事業	14	(16)
DTP 事業	233	(231)
その他の事業	62	(55)
計	707	(690)

主な受注先

静岡県（議会事務局、広報課、選挙管理委員会、健康福祉部他）、静岡市（議会総務課、広報課、選挙管理委員会、障害者福祉課、収集業務課他）静岡市社会福祉協議会、静岡県立中央特別支援学校、静岡視覚特別支援学校、静岡県済生会（支部事務局、ステーションおしか、いこいの家他）

(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員6名）

平成25年度目標及び結果（福祉ホーム）

安全なかつ快適な居住の場を提供し規則正しい生活指導を行う。

利用者に安全な居住・快適な居住の場を提供することができた。また、25年度は年度末に1名退所者があった。

利用者数

	利用者数（名）	
定員	6	(6)
一日平均利用者数	4.9	(5)

16 静岡済生会看護専門学校（公益事業）

基本理念

- ・済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえのない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

平成25年度目標及び結果

- ・看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養い、看護の必要な知識・技術を習得し、それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養った。
- ・保健・医療・福祉に貢献し修得する看護師を育成することを目的に、それぞれの学年目標を掲げ、学校での基礎的学習や臨地実習での技術習得に励んだ結果、対象の学年においては、国家試験全員合格など、ほぼ目標を達成することができた。

本年度においては、次のとおり119名（121名）の看護師養成教育を行った。
この運営には、142,137,257円（143,552,578円）の経費を要し、うち、18,398,000円（18,398,000円）の補助金を県から受けた。

加えて、教育課程の適正な運用を図り、個々の学生への学習指導を充実・強化し実践した。また、臨地実習においては、臨床指導者と教員との連携を図り、学生への指導体制を整えて協働して指導に当たった。学生一人一人の理解度に応じた学習を支援し、その結果、在校生38人全員が国家試験に合格することができた。さらに、看護師としての適性がある学生を確保するため、学校説明会やオープンスクールを開催するとともに、県内のナースセンター主催の看護学校進路説明・相談会への参加や高等学校訪問により、看護学生を目指す学生を募集した。

（1）学年別在籍者数

（名）

区分	1年次生	2年次生	3年次生	計
平成25年度	40	36	43	119
平成24年度	40	36	45	121

(2) 入学試験結果状況

(名)

区 分		平成 26 年度入試	平成 25 年度入試
受験者	推薦入試	31	18
	社会人入試	26	30
	一般入試	207	259
	計	264	307
合格者	推薦入試	18	17
	社会人入試	1	4
	一般入試	42	59
	計	61	80
入学者	推薦入試	18	17
	社会人入試	1	4
	一般入試	17	19
	計	36	40

(3) 卒業生の状況

(名)

区 分	平成 25 年度	平成 24 年度
済生会総合病院	33	33
その他県内病院	2	3
県 外 病 院	2	0
進 学	1	0
そ の 他	0	0
計	38	36

(4) 看護師国家試験結果状況

(名・%)

	平成 25 年度			平成 24 年度		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	38	38	100.0	36	36	100.0
県内看護専門学校(3年制課程)	-	-	95.1	-	-	94.1

平成 25 年度合格率 95.1%は、厚生労働省が発表した新卒者の合格率である。

1 7 静岡済生会訪問看護ステーションおしか (公益事業)

基本理念

・ 障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住みなれた地域で、我が家で安心して『その人らしく心豊かな生活』ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

平成 25 年度目標及び結果

1 安定した運営をめざす

- ・ 訪問延べ件数は 16,763 件で目標の達成率 98%。平均単価は昨年と同様。リハビリスタッフ増員により受容への対応が可能になった。病院相談室との連携による依頼の増加、利用者実人数、訪問延べ件数ともに増加しており、計上収支は黒字決算。

2 スタッフ教育による、個々のスキルアップをめざす。

- ・ 個々の年間目標作成によって、自己の役割認識や業務改善に繋がった。部署内研修の年間計画によって年 6 回定期的に研修が行えた。個人評価表作成については、次年度への課題になった。

3 働きやすい職場環境の充実

- ・ 事業所移転を行い事務所環境が改善できた。親睦会を通じたスタッフ間の交流や、個人面接の実施でスタッフフォローに努めた。常勤職員の有休取得率が課題である。

4 利用者への良質なサービスの提供

- ・ 行政実地指導による指摘事項も無く、顧客へのアンケート調査の実施、事業年報の編集で業務の振り返りを行った。各自が研修計画を基に研修会に参加できた。カンファレンス習慣を設け事例検討を行い、サービス担当者会議や退院前カンファレンスにも積極的に参加を行なった。診療所の医師や他職種との連絡調整も積極的に行なった。

5 防災マニュアルの整備

- ・ 緊急時連絡網はヤフー災害メールを利用し確立。災害マニュアル及び顧客情報管理備品整備は委員会を設け整備することができた。

(1) 訪問看護事業実績

平成 25 年度は介護保険、医療保険を含め訪問延件数は 16,763 件 (15,152 件) であり、平成 24 年度に比べ 1,611 件 (介護保険 1,526 件増、医療保険 95 件増、その他 10 件減) 増加した。

また、訪問延件数のうちサテライトみかど台分は 7,002 件 (6,294 件) であった。

介護保険延件数	13,737 件	(12,211 件)
医療保険	2,967 件	(2,872 件)
その他(実費訪問)	59 件	(69 件)
合 計	16,763 件	(15,152 件)
(月平均 1396.9 件 (1262.7 件) 1 日平均	57.2 件 (51.5 件))

疾病別 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

病 名	人 員 (名)	百 分 比 (%)
神経系疾患	47	10.0
呼吸器系疾患	41	8.7
精神障害	32	6.8
脳血管系疾患	58	12.4
骨格系及び結合組織疾患	38	8.1
悪性腫瘍	113	24.0
その他	141	30.0
計	470	100.0

月別訪問者数

年 月	取扱実人員 (名)	延 件 数 (件)
25 年	4 月	266
	5 月	275
	6 月	284
	7 月	286
	8 月	279
	9 月	274
	10 月	276
	11 月	277
	12 月	277
	26 年	1 月
2 月		274
3 月		281
計	3,326	16,763
月 平 均	227.2	1396.9
一 日 平 均		57.2

(年間訪問日数 293 日)

年齢別性別訪問者数 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日) 単位：名

年齢 性別	～ 59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 ～	合 計
男性	20	15	17	21	33	43	42	32	223
女性	20	4	6	22	30	45	50	70	247

(2) グループホーム等への訪問看護

認知症の方がグループホームのなじみの関係の中で、希望すれば、重度化しても終末期であっても最後までグループホームでの生活が継続できるよう支援した。

委託契約したグループホーム 1 施設に週 1 回の訪問をし、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談への対応、また、必要に応じ医師との連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等通常の訪問看護を行った。